



ハ自國ノ版圖内ニ在テ自國ノ事務ヲ專斷スルニ  
 異ナル所ナシ又馬島忠ガ歸國ニ應ジ越東夏金安集  
 テシテ北ニ同行セシメタルガ如キハ最モ形勢ノ不  
 安ナリナリ誠ニ金剛氏ハ國王陛下下ヨリ支那帝  
 皇ニ對シテ情表ヲ持シテ自カラ臣ト稱シ  
 天恩ニ蒙リテ東土ヲ授クシメ臣皇慈ヲ感戴シ天ト  
 日向自カラ名ヲ稱シ臣ト稱ス蓋タ不都合ナリト云  
 フ可シ兩者孰レカ必ズ其一ニ昨低アル可ク決シテ默  
 退ス可ラザル事體タル可ク誠ハ彼ノ王妃ハ逝去シテ  
 リト云テ國中ニ事ヲ發シ兩國重要ノ談判上ニ王妃  
 御用ノ爲メ難列ヲ延期スト迄モ云ヒタルモノガ実  
 存存命ナリト被覆スルガ如キ實ニ見識ト一般ニテ解  
 釋ナラズ事大ナリ

雜報

○花房公使 在神戶通信員より昨日左に電報到達し  
 神戶九月廿五日午前九時十五分發  
 花房公使並に朝鮮使節一行とも今朝六時着港二日  
 程滞在のよし今夜湊川堤上にて有志者より饗應す  
 ○花房公使 花房公使の一行は今廿六日午  
 後八時明治丸にて神戶港を發し歸京せらるゝ旨昨夜  
 其筋へ電報にて申來りたる由左すれば明後廿八日朝  
 横濱へ來着同日歸京せらるる都合あるべし  
 ○朴泳孝 朝鮮使節朴泳孝の一行は花房公使と同船  
 して昨日神戶へ着したるが京攝地方見物に爲め暫時  
 同地へ滞在するよしは付多分花房公使に授けて着京  
 するならんと云ふ  
 ○遣韓兵員 在韓の日本兵は京城より一中隊を留め置  
 くのとよて他は悉皆引上ることとなり既に一昨日馬  
 關着港の高砂丸にて二中隊の歸營し今一中隊の今日  
 頃馬關へ着港する住江丸にて歸着する筈ある由左  
 されと目下在韓の支那兵は三千人にて日本兵は唯二  
 百人のみあるべし  
 ○朝鮮新報(前号の續き) 又去る十二日を以て刑よ  
 處せられたる朝鮮暴徒の巨魁其他の宣告及び口供は  
 左に如し  
 御營武兩大將の宣告  
 傳曰。師律所在。不可仍置。前武衛大將李景夏。御營  
 大將申正熙。並記過待命。  
 傳曰。前武衛大將李景夏。御營大將申正熙。事體所  
 在。不可但以記過而止。並施以滅死島配之典。  
 十二日斬に處せられし三兇の宣告  
 作孽館所殺害日本人之諸漢。提得窮竅云矣。亦其所  
 供。則孫順吉。崔峰圭。孔致元三漢之悖惡。情節。擻  
 露無餘。並出付軍門。大會軍民。梟首。警衆爲只爲。  
 衆兇の口案  
 七月十六日正法乱軍十一人供案  
 居西江鄭完都。年四十一。武科副局右都左司右哨三  
 旗總所供。内調局諸軍。以朔布不給。衆怨頗盛。矣身  
 於六月十日。同乱軍入宮城。持兵作擾。同時吊手  
 者。林宗範。金銀得。李守吉也。犯宮的。實當  
 死。  
 同日。亂軍居在尋里高守奉。年十九。武衛巡令手居  
 在尋里林宗範。年二十九。御營巡令手居在尋里金銀  
 得。年十七。副局牙兵利壽院李守吉。年十八。副局中  
 軍半午所供内。矣身等實與旗總鄭完都。同時作擾犯  
 宮。當死。  
 同日。亂軍居在尋里李命。年二十二。副局右都司  
 前哨二族二隊所供内。矣身於六月初九日。聞角聲。  
 在尋里宗範。等。聚衆在仁川。圍住日本人床  
 在。殺死奔散之狀。亦所供者。而犯宮之事。初無干涉  
 云々。  
 同日。亂軍居利泰院朴長厚。年十八。副局右都司

○領本全權公使 同公使より吉田書記官渡邊憲田の  
 二二日神戶へ着港翌廿三日開港  
 同公使には日本日午前十時新橋  
 へ着き心くれ直ちハキャン號へ乗込  
 昨日の紙上新聞國王が京城王宮の敵  
 兵を討つた事を知りて大に喜びし  
 事を知りて大に喜びし

○仁川府并に同國の景況 去る廿  
 日。亂軍居在尋里金三角。年二  
 在尋里朴與石。副局右都右哨一旗  
 於六月初九日。因事往新門外。見  
 同僚玄浩燁。適來到此。大聲呼謂  
 此際燒滅日人。更待何時。衆民因  
 亦隨以助勢。翌日。犯宮之變。亦爲  
 仁川府并に同國の景況 去る廿  
 日。亂軍居在尋里金三角。年二  
 在尋里朴與石。副局右都右哨一旗  
 於六月初九日。因事往新門外。見  
 同僚玄浩燁。適來到此。大聲呼謂  
 此際燒滅日人。更待何時。衆民因  
 亦隨以助勢。翌日。犯宮之變。亦爲

○仁川府并に同國の景況 去る廿  
 日。亂軍居在尋里金三角。年二  
 在尋里朴與石。副局右都右哨一旗  
 於六月初九日。因事往新門外。見  
 同僚玄浩燁。適來到此。大聲呼謂  
 此際燒滅日人。更待何時。衆民因  
 亦隨以助勢。翌日。犯宮之變。亦爲

○仁川府并に同國の景況 去る廿  
 日。亂軍居在尋里金三角。年二  
 在尋里朴與石。副局右都右哨一旗  
 於六月初九日。因事往新門外。見  
 同僚玄浩燁。適來到此。大聲呼謂  
 此際燒滅日人。更待何時。衆民因  
 亦隨以助勢。翌日。犯宮之變。亦爲

○仁川府并に同國の景況 去る廿  
 日。亂軍居在尋里金三角。年二  
 在尋里朴與石。副局右都右哨一旗  
 於六月初九日。因事往新門外。見  
 同僚玄浩燁。適來到此。大聲呼謂  
 此際燒滅日人。更待何時。衆民因  
 亦隨以助勢。翌日。犯宮之變。亦爲